

令和5年度第3回中濃圏域地域医療構想等調整会議 委員意見

○ 議題

- 1 公立病院経営強化プランに係る意見聴取について

○ 意見等及び回答

病院名	意見等	回答
郡上市民病院	<p>郡上市民病院公立病院経営強化プランについての追加説明 令和4年度、第2回 中濃圏域地域医療構想等調整会議（令和5年2月17日）において、郡上市民病院の病床利用率が、令和4年度病床機能報告で、41.7%になっていることより郡上市の患者がすでにピークアウトしているとの指摘で、地域医療の方向性を求める意見があった。しかし、コロナ以前の病床機能報告では、病床稼働率は81.2%（令和2年度）、77.6%（令和3年度）であり、令和4年報告時期はコロナ病床確保対策で、療養病棟（50床）の閉鎖による影響であることを説明した。 人口減少は避けられないもの高齢化人口がおおく、中濃圏域では慢性期病床の不足が見込まれる中、郡上市内唯一の療養病床を維持しつつ、郡上市の急性期医療の中核を担う経営強化プランを策定した。（郡上市民病院）</p>	
国保白鳥病院	<p>郡上市の北部地域の病院として、さらに鷺見病院さんとの連携を密にして運営していただくことを希望します。</p>	<p>【国保白鳥病院】 鷺見病院が中長期的にどのような役割を目指していかれるのかは十分情報提供をいただいておりますので、将来的に当院とどのような役割分担と連携を行っていくかは現段階では検討が不十分であると言わざるを得ないかもしれませんが、今後郡上市の地域医療確保検討委員会などを通じて検討して行きたいと思っております。現状では鷺見病院は急性期及び慢性期を主にしておられるので、当院の経営強化プランp17に「郡上市民病院や市内民間病院の急性期病棟との連携を強化し、回復期患者の受け入れを行いつつ、在宅復帰支援を行う。また長期療養が必要な患者に対する郡上市民病院や市内民間病院の療養病棟への転院を促進し、病期に沿った医療提供体制を構築する。」と記載させていただいております。一方、p10「当院の果たすべき役割」の中では「市内の急性期医療を担う郡上市民病院との連携をより一層強化し、」との記載しかないので、「市内の急性期医療を担う郡上市民病院はじめ急性期病棟を持つ民間病院との連携もより一層強化し、」に修正いたします。</p>
郡上市民病院 国保白鳥病院	<p>全体としては意見ありませんが、以下の点を今後のこまかなプランに参考にして下さると嬉しいです。 ・ 少子対策として、子育て世代の従業員（医師含む全ての職種）の時短勤務の検討 ・ 医師、看護師等の確保と働き方改革について、薬剤師も不足と聞いています。「等」の部分に含まれているとは思いますが。</p>	<p>【郡上市民病院】 少子化、子育て支援については院内託児所および病児保育を行っています。すでに時短勤務、フレックス制、男性育児休暇の取得を行っています。 医療職不足には薬剤師も含まれます。 【国保白鳥病院】 子育て世代従業員の時短勤務のご提案ありがとうございました。院内保育や病児保育には取り組んでおりますが、時短勤務に関してその部分をカバーする体制をとるにも人材確保困難な状況なので早々に取り組むことは難しいかもしれません。今後の検討課題にさせていただきたいと思っております。 また、医師看護師等の確保に関し、この2職種に限ったことではなく他のメディカルスタッフ確保も重要課題であることは認識しております。当院の経営強化プランp20にも「医師以外のメディカルスタッフに関しても、地域での確保を進めていくとともに、当院の取り組みの情報を発信することで確保につなげることや、多職種連携を進め医療従事者の確保や働き方改革を推進していく。その他、地域における人財育成に積極的に取り組むよう、小学生を対象とした「わくわく病院体験ツアー」に始まり中高生の医療・介護系進学セミナー、高校生を対象とした岐阜県へき地医療研修会、職場体験、郡上北高との協働による介護職員初任者研修、医学生看護学生等の地域医療実習の受け入れ等幅広く医療介護に暴露していただくなど、人財確保につながる事業を継続的に展開していく。」と記載させていただいております。</p>

病院名	意見等	回答
郡上市民病院 国保白鳥病院	<p>丁寧な公立病院経営強化プランを作成して頂き、ありがとうございます。この経営強化プランをベースにさらにもう一步踏み込んだ議論ができればと考えて、いくつかの点を述べさせていただきます。</p> <p>1. これは必ずしも公立病院さんだけで議論出来るものではありませんが、中濃圏域全体としては、どのように構想されていますでしょうか？この圏域の患者さんのみをカバー出来るようにと考えておみえなのか？それとも例えば飛騨圏域の患者さんも岐阜市などに行かなくても診れるようにしていくという構想なのでしょうか？（それによってニーズが変わるかと思えます。）</p>	<p>【郡上市民病院】 可茂地域については木沢記念病院（中部国際医療センター）、関・美濃地域については中濃厚生病院、郡上地域については郡上市民病院が急性期医療の中心的役割を担います。なお、郡上地域の急性期医療については、状況に応じて中濃厚生病院も担います。とされています。地域構想以前より中濃圏域の患者さんは中濃圏域以外の大学や、県総合医療センターなどへ行くことが多く、長良川流域に沿った移動があり、一方では中濃圏域の木曾川流域の移動もあります。中濃圏域のこういった事情を考慮してすべての患者を圏域内でカバーするわけではありません。</p> <p>【国保白鳥病院】 ご指摘の点は中濃医療圏全体での構想の位置づけになるかと思いますので、県も含め今後圏域をまたぐ体制の検討などに関し地域医療構想会議で議論していただければと考えます。一方当院は県北西部地域医療センターとして飛騨医療圏の高山市荘川地区と白川村の地域医療を相互支援すべく地域医療連携推進法人を立ち上げ取り組みを行っております。この地域にお住いの方々の医療を主とした生活支援ができればと考えております。この点は当院経営強化プランのp17に「当院は、地域医療連携推進法人県北西部地域医療ネット（県北西部地域医療センター）の基幹病院として区域内の公立診療所とネットワークを構築し、主にプライマリ・ケア機能を担う診療所群と、これら診療所群の在宅ケアなどを含むプライマリ・ケア機能を補完支援するため、プライマリ・ケア機能に加え、ポスト・アキュート、サブ・アキュートあるいはレスパイトなどといった後方病院としての入院機能を担う基幹病院の国保白鳥病院という位置づけでそれぞれの役割を果たし、地域住民の生活の身近なところでの支えを重視し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう在宅生活につながる医療・ケアや在宅での医療・ケアに重点を置いて取り組む。」と記載させていただいております。</p>
	<p>2. 上記に関係して、掲げられている連携は、どこどのような内容、どのような目的のために行うことを想定してみえるでしょうか？郡上市の公立病院間だけでなく、2次医療圏である中濃圏域の中での立ち位置、役割分担としてどのように考えておみえになり、その際、中濃厚生病院、美濃市立美濃病院、中部国際医療センターなど他の基幹病院さんとの連携や役割分担はどのようになるのでしょうか？（地域の分担だけで、お互いに全ての分野・領域をカバーするという方針でしょうか？）</p>	<p>【郡上市民病院】 連携は疾患により、圏域内の病院だけでなく、圏域外の高次施設との連携を行っています。治療だけでなく、地域医療については中濃厚生病院、中部国際医療センターの研修医の地域研修を年間10名程受け入れ、地域特性による疾患、教育の連携も行っています。</p> <p>【国保白鳥病院】 中濃圏域内では中濃厚生病院や中部国際医療センターが高度急性期を担っていただいておりますが、実質的な人流としては今までの地域医療構想会議でも何度か議論されていた通り、中濃厚生病院に三次医療を含む後方病院機能をお願いすることが多くなっております。この点から当院経営強化プランではp17に「より高度急性期医療が必要な場合は、中濃医療圏内の基幹病院である中濃厚生病院との連携あるいは一部郡上市民病院や市内民間病院の急性期病棟との連携を強化し、回復期患者の受け入れを行いつつ、在宅復帰支援を行う。また長期療養が必要な患者に対する郡上市民病院や市内民間病院の療養病棟への転院を促進し、病期に沿った医療提供体制を構築する。」と記載させていただいております。地域内完結は容易ではありませんので、当院としては中濃圏域あるいは岐阜圏域の高度急性期病院との連携のもとポストアキュート、サブアキュート、在宅医療をといった地域生活と近い部分を中心とした役割を担っていきます。</p>
	<p>3. そのような役割分担を考える上で、公立病院さんが担うべき役割は民間病院さんとは違う部分もあり、不採算部門などもあろうかと思えます。そのような観点からの課題や十分な支援が足りない部分などが無いのでしょうか？仮に儲からなくても、赤字でも拡充しなくてはならない部分などはないのでしょうか？</p>	<p>【郡上市民病院】 郡上市民病院は郡上市内唯一の分娩可能施設で、少子化していても市内での出産が不可能にならないよう、小児科対応、および緊急手術対応も含め、不採算部門の維持は公的病院の役割です。また郡上市内では、手術が可能で病院が減少しており、必要な外科的処置ができる設備の維持が必要です。</p> <p>【国保白鳥病院】 ご指摘の点は重要な課題であると認識しております。現状不採算な部分として大きいのは小児医療かと思われまます。小児専門医の確保は容易ではありませんが、当院はその多くの医師が総合診療医であり小児も含めた医療提供体制を継続していきたいと考えております。また、今後の少子高齢化人口減に伴い医師に限らずスタッフ確保が困難となる分野も見られるようになる可能性があるかと思っております。郡上市とも相談しながら公立医療機関として取り組むべき役割を果たしていこうと思っておりますし、経営的な面からも地域住民の皆様にも十分ご理解いただくような取り組みも必要かと思っております。</p>

病院名	意見等	回答
	<p>4. 添付させて頂きましたように、郡上市の今後の患者ニーズは劇的に変わってくることが予想され、増える病気、減る病気が顕著だと思えます。単にベット数や医師数だけの問題ではなく、このような疾患の増減に対する対策はどのようにお考えで、それに対するリソースなどは十分確保できそうなのでしょうか？</p> <p>たとえば、高齢者の疾患が増えていく事に対して、地域のクリニックの先生方と協力して在宅リハの充実や、その指導を病院として積極的に行っていくことも考えられるかもしれません。その際の連携やリソースの確保は大丈夫でしょうか？その部分は他の病院に任せて、貴院は別の所を重点的に担う役割なのかもしれません。他の施設が担うのであれば、この圏域ではどの施設が担うことになるのでしょうか？またこれから先は、高齢化社会に向けて、病院間の連携だけでなく連携が不可欠とも思われますが、そのような取り組みの充実度や見通しは如何でしょうか？</p> <p>引き続き、そういった観点からの重点化や先を見越したご準備をお願い出来れば幸いです。お手数をおかけいたしますが、よろしくお願い致します。</p> <p>添付：郡上市疾患別患者推計</p>	<p>【郡上市民病院】</p> <p>添付資料のように増える疾患、減る疾患もありますが、高齢者においては複数の疾患を持つことが多いため、特定の疾患にのみ特化して治療を行う都市型急性期病院は、地域ではむつかしく、急性期でありながら慢性疾患もカバーする必要があり、また、慢性期でも急性期疾患の初期対応が必要になります。</p> <p>高齢者が増加するため、市外への移動などがむつかしくなっており、市内での入院施設の必要性は言うまでもありません。しかし医療職の採用で各病院が苦勞していることより、将来にわたり、郡上市内または中濃圏域での医療職の確保を、単独の施設だけでなく、行政、大学などと協力する体制を構築していくことが必要です。</p> <p>また地域のクリニックの医師の協力については、都市部より顔の見える関係で連携していますが、クリニック医師は高齢化しています。郡上市内では専門診療科が十分でないため、大学病院だけでなく、他の圏域より専門医の派遣を受けています。</p> <p>【国保白鳥病院】</p> <p>ご指摘の点は当院としても重要な点と考えております。一つは誤嚥性肺炎の増加ですが、現在市内医療機関で唯一常勤の言語聴覚士を雇用しているとともに、令和6年からはさらに常勤1名増員し院内外の活動を活発化させる予定でおります。また歯科医師会とも連携して入院患者に対して歯科的評価指導を月1回実施しております。誤嚥性肺炎一つとってみてもこれらの職種を含め多職種で取り組むようにしており、当院経営強化プランの中でもp11に「地域包括ケア病床を活用し、単にショートステイの代替機能としてのレスパイトケアではなく、医療ニーズへの対応と、リハビリテーション、栄養サポート、口腔ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、排泄ケア、ポリファーマシー対策、Advance care planning（以下ACP）などを提供し、生活機能の低下予防あるいはその向上を図りながら、その後の在宅療養につながる取り組みを行っていく。」と記載させていただいております。</p> <p>一方でリソース確保は容易ではありませんが、当院経営強化プランp20に記載したように人材育成には幅広く取り組むようにしており、人材確保育成には切れ間なく取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、開業医の先生方との連携もご指摘のように重要な点であり、現在2軒の開業医と契約を交わし、開業医の先生がご都合で不在の際の先生方がみておられる在宅患者支援を行うことにしております。この点は当院の経営強化プランに記載しておりませんでしたのでp15 12) 政策医療（在宅医療）の②の「強化型在宅療養支援病院としてその役割を果たす。」の後に「強化型在宅療養支援病院としてその役割を果たす。また、在宅医療に取り組まれている開業医の先生不在時の支援も行っていく。」と追加修正します。在宅リハに関しては訪問看護ステーションの一環として取り組んでおり継続していきますし、そのためのリハビリ職の確保も現状できております。なお、さらにご指摘いただいている地域資源との連携に関しては当院経営強化プランのp11に「併設している訪問看護ステーション、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、通所リハビリ施設との密接な連携や、この枠組みにとられない地域内の多様な施設あるいは職種との連携・協働によって、患者・利用者を生活者の視点でとらえ、病院と在宅を一体とした切れ目のない地域医療介護福祉を提供する。」と記載させていただいております。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 郡上市民病院は、経営強化プランを郡上市を中心に作成しているが、地域医療構想調整会議の観点からは、中濃地区のなかでプランを練る必要があるのではないかと？ 当然、郡上市においても、高度急性期医療を必要とする症例は発生するが、それらを自院・あるいは郡上市内で完結しようとする試みは、地域医療構想の概念とは異なるのではないかと？ 医療圏の広さ、交通の便の問題は改善できないが、基本的に初療を担当し、生命の維持、疾病の悪化・進行がない状況を確保して、医療圏内・外の高度医療ができる施設に搬送するのが現実的ではないでしょうか？ 高度医療完結後の維持医療（慢性期医療）を自院発生の患者のみならず、域内の高度医療担当病院からも送っていただいて、病棟稼働率を上げてはどうでしょうか？ その点、白鳥病院は サブアキュート、ポストアキュートに徹し、在宅に力を入れようとしているので、地域医療構想に合致した強化プランと考えられます。 	<p>【郡上市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想では可茂地域については木沢記念病院（中部国際医療センター）、関・美濃地域については中濃厚生病院、郡上地域については郡上市民病院が急性期医療の中心的役割を担い、なお、郡上地域の急性期医療については、状況に応じて中濃厚生病院も担います。とされています。 現在郡上市内には高度急性病床はありません。したがって高度急性期医療が必要な疾患は、中濃厚生病院や大学病院など圏域外施設で対応してもらい、一般急性期病棟で可能な疾患に対して対応しています。初療をおこない、市内のリソースで可能な症例は当院で対応し、高度救急医療として当院で対応できない症例はドクターヘリなども活用し搬送しています。

病院名	意見等	回答
郡上市民病院 国保白鳥病院	<ul style="list-style-type: none"> ・白鳥病院も郡上と同様、自院発生のお患者のみならず、中部国際医療センター、中濃病院から、積極的に長期療養を必要とする患者を受けれてはどうでしょうか？稼働率の向上につながると思っています。 ・一方、中部国際医療センター、中濃病院は、いままで以上にそのような患者を、郡上、白鳥に送るよう、システムを確立してはどうでしょうか？ ・総論として、個々の病院ではなく、全体で病棟稼働率を上げるよう考えては如何でしょうか？ ・結果的に、域内に余剰病床が発生すれば、公立病院を中心に余剰病床を削減したらいいのではないのでしょうか。 	<p>【郡上市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度医療完結後の維持医療（慢性期医療）を自院発生のお患者のみならず、域内の高度医療担当病院からも送っていただいて、病棟稼働率を上げてはどうでしょうか？ → 地域連携室を経由して、すでに圏域内外からの紹介を積極的に受けています。 ・結果的に、域内に余剰病床が発生すれば、公立病院を中心に余剰病床を削減したらいいのではないのでしょうか → 郡上市内には入院可能施設が4病院あり八幡地区に2か所（民間、公立）、白鳥地区に2か所（公立、社会医療法人）あり郡上市の地理的に北部と南部で、それぞれ病床数については民間とともに検討してきます。 <p>【国保白鳥病院】</p> <p>ご指摘のとおりであり、当院としてはポストアキュート受け入れ機関としての役割は重要と考えておりますが、一方で回復期から慢性期に至った患者は地域との生活を切り離すことなきよう可能な限り身近な医療機関や施設でサポートしていただくことが重要と考えます。広大な中濃医療圏の中で、患者あるいは利用者をおその生活の場を考慮せずに病床稼働率だけを鑑みて受け入れるということはなかなか地域の住民の方々にとっても受け入れがたいことと思われまふ。したがって、まずは郡上の回復期慢性期の方に対し当院としては特に在宅復帰支援を考慮しながら地域からもまた中濃厚生病院や中部国際医療センターからも積極的に受け入れていきたいと考えています。</p>